

当院の竹中顧問(香川大学名誉教授)が瑞宝中綬章を受章されました。



竹中 生昌 顧問

この度、令和元年秋の叙勲に際して、はからずも瑞宝中綬章の栄誉に浴し、去る12月13日国際劇場にて勲記・勲章の伝達を受け、ひき続き皇居に参内して天皇陛下に拝謁の栄を賜り、感激の極みでした。

瑞宝章は国家公務員を主な対象とするものですが、鳥取大学13年、香川医大17年、そして阪本病院18年と83歳まで長く生きて

きて、綬章にいたりました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます次第です。

今にして思えば、人生の岐路の偶然性を実感しているこの頃です。松山での勤務医に見切りをつけ、開業すべく広島に帰り、土地を探していた

とき、母校の京都に帰られた恩師加藤教授から「開業するつもりらしいが、34歳では若すぎる。もう2~3年鳥取大を手伝え」との一言で、年の瀬迫る昭和44年12月22日米子到着。丁度大学紛争の最中、教職員の多くがやめて、教授と卒業1年目の新人1人のみ、これが大学？と驚くとともに、何とか大学らしくしようと逆に闘志が湧いてきました。その後教職員も次第に増え、研究テーマとなったステロイド研究施設での深夜の実験を通して、前立腺と男性ホルモンの役割に邁進しました。こうした経歴から新設の香川医大へ再び瀬戸の海を渡ることになりました。



(2ページへつづく)

我が国最後の新設大学として、創設の雑用に追われながらも、教育、診察そして研究と軌道に乗ってきました。

定年後は広島大学同窓の阪本一樹院長（現理事長）先生に招かれて阪本病院に再就職しました。東かがわ地区ただ一人の泌尿器科専門医として、当初は大学とは異なった患者層の違いに面食らいましたが、やがて高齢のおじいさん、おばあさんと仲良くなり、やっと地域に溶け込むことが出来、今では様々な出会いを楽しんでおります。さらに病院内におきましても、認知症の始まっている私のテニス、ゴルフ、卓球に年寄りの冷や水と言われながらも、一緒に参加して老人を労わり、楽しませて下さる皆さまの温かいご支援のお陰で、今日の栄誉になりました。

これから何年生きられるか分かりませんが、この栄誉に恥じることはないよう一層精進いたす所存でございますので、今後とも宜しく願います。

小にして学ばば、則ち壮にして為すことあり
壮にして学ばば、則ち老いて衰えず
老いて学ばば、則ち死して朽ちず

（佐藤一斉：言志四緑）

プロフィール

竹中生昌先生は、昭和11年1月3日岡山県に生まれ、昭和35年3月広島大学医学部を卒業後、昭和36年3月岡山県津山中央病院において実地修練終了。昭和40年3月広島大学大学院修了後、国立大竹病院、国立松山病院、中国電力病院に勤務したのち、昭和45年12月鳥取大学医学部講師、助教授を経て、昭和58年4月1日香川医科大学医学部外科学講座泌尿器科学初代教授として就任。平成13年3月31日定年により退職した。

香川医科大学初代泌尿器科学教授として、教育・研究に携わるとともに、泌尿器科科長として医学部附属病院の管理運営および泌尿器科診療にあたり、本学の発展に貢献した。特に附属病院開院にあたっての膨大なマニュアル作成等、その功績は顕著なものである。

また、在任中は教育・研究体制の確立に取り組むとともに、泌尿器科診療のみならず、人工透析室部長、手術部長、材料部長など病院としての運営に当たった。また大学院博士課程の創設に携わるとともに、併設された看護学科の教育にも従事した。

平成13年4月1日、永年の功績が認められ、香川医科大学名誉教授の称号を授与される。



新しく着任した医師を紹介いたします



岡田 真樹 医師

プロフィール

2000年 - 香川医科大学 医学部附属病院
2003年 - 2004年 西山脳神経外科病院, 医師
2004年 - 2006年 米国国立衛生研究所・米国国立癌研究所
2006年 - 2008年 香川大学医学部附属病院, 医員
2008年 香川大学医学部附属病院, 病院助教
2012年 - 2013年 香川県厚生連 滝宮総合病院, 医長
2014年 - 2015年 香川大学医学部附属病院, 病院助教
2015年 - 香川大学医学部附属病院, 助教

日本脳神経外科学会専門医 日本がん治療認定医
日本抗加齢医学会専門医 日本認知症学会専門医
日本臨床栄養協会NR・サプリメントアドバイザー 脳腫瘍、水頭症

このたび令和元年11月1日付で香川大学より阪本病院へ入職させていただくことになりました岡田真樹（おかだまさき 43歳・男）です。

平成12年卒業後に母校・香川医科大学（現・香川大学）脳神経外科に入局、脳神経外科医の道を志すことになりました。小川院長との出会いはさらに遡り大学6年生の時点で、学生当時は放射線治療に興味があり放射線科医を志していたのですが、小川先生より「君、放射線治療なら脳外科だよ」という熱い勧誘に押されて、脳外科への入局が決定しました。（註：本原稿記載中のいま考えても、その経緯といえますか、放射線科→脳外科へと変換されるロジックが不明です・・・）入局後も小川先生とは指導医、研修医の関係で熱心なご指導を賜り、現在までの医師としての礎となっております。その御縁もあって、当院院内有志で開催されていた某イベントに何度か参加させていただいたこともありますので、実は全く縁もゆかりもない病院というわけではありません。その後は学位取得および米国国立衛生研究所・癌研究所への留学を経て平成18年に帰国してからは、主に脳腫瘍の患者を中心に診療を行ってきました。

膠芽腫、悪性リンパ腫や転移性脳腫瘍に代表される悪性脳腫瘍は致死的な疾患であり、適切な治療を行っても疾患そのものの完治は期待できず、適切な医療・福祉サービスの介入調整を行って退院していただくまでが一連の治療になります。

(4ページへつづく)

しかしながら、特に悪性脳腫瘍については大学病院より東の地域では、入院・在宅ともに受け入れ先に乏しく、退院調整は難航し、患者ならびに患者家族は多くの不安を抱えながら地域に帰っていくこととなっていました。このたび大学を離れるにあたって、脳腫瘍診療の東の裾野を広げてくるという啖呵を切ってきましたので、これからは（少しずつとは思いますが）腫瘍の患者も増やしていきたいと考えております。また脳腫瘍は一般には馴染みがない疾患ではありますが、他にも、頭痛学会（脳外科といえば頭痛ですが、頭痛といっても数多くの種類とその治療法があります。また新しい治療薬が出てきている分野でもあります）、認知症学会（一般病院における脳外科診療では頭痛とともに重要な疾患です。脳外科では内科的治療だけでなく外科的な治療についても介入可能です）、抗加齢医学会（怪しい言葉である「アンチエイジング」ですが、心身の病と未病を治すことで正常老化に近づけることを指します。趣味と実益をかねて勉強したのですが、高齢化社会が進むこのご時勢において、東洋医学で言うところの「未病を防ぐ」的観点＝予防医学はこれからの重点分野です）などにも属しています。脳腫瘍だけではなく、これらの専門医資格を積極的に生かした活動もできるのではないかと考えている次第です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和2年4月1日に介護医療院を開設する予定です。

介護医療院とは、長期的な医療と介護の両方を必要とする要介護の高齢者(利用者)を対象に、「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と、「生活施設」としての機能を提供できる施設です。

外来診察時間が変更になりました。

脳神経外科外来も、月～土まで診察になりました。
皮膚科外来は、火曜日AMと金曜日AMも診察します。

外来診療科目一覧

2019年12月現在

科目	曜日	月		火		水		木		金		土	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
整形外科		○	○	○	○	○	○	○	○ 16時～18時	○	○	○	○
脳神経外科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科		○			○					○		○	
泌尿器科		○	○	○ 予約のみ	○ 14時～17時	○	○	○ 9時～12時		○	○		
内科		○		○	○ 14時～18時			○		○		○	
形成外科		○	○			○	○					○	
皮膚科				○					○ 14時～16時	○			
リハビリテーション科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
歯科		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	

診療時間は午前9時～12時30分、午後1時30分～6時です。

※祝日・日曜日・年末年始(12/31～1/3)は休診となっております。但し急患の場合はこの限りではありません。 ※手術・学会出張等の理由で変更する場合があります。